

第 2 号

本小の教育「授業研修会」

5年道徳

◦授業スタンダード期「授業の型づくり期」

本日の授業研究は、初任者研修の「佐久川和幸」先生です。佐久川先生は、補充経験が豊富で5年研くらいの風格があります。5学年は、年度スタート前から、教室経営・ロッカーの整理など「UD化」に取り組み、進めていました。今回の授業研も、事前に1組・3組で検証を行ったそうです。「チーム5学年」の協働性・連帯意識を感じさせる授業研でした。

道徳の研究授業の直前の2校時に、学級の子供同士のトラブル発生で多少の不安と緊張感の残る中ではありましたが、素晴らしい「授業研修会」でした。今後の初任研も頑張ろう！！

■ 5年2組（道徳）「佐久川 和幸」先生 3校時目 実施



【児童の手(学習規律)】

●「よい姿勢」ー「授業始めの挨拶」



●「発表者」へ注目、そして「拍手！」



●「けじめ」聞く、書く、考える、等



■「子ども達の様子」(支持的風土)■

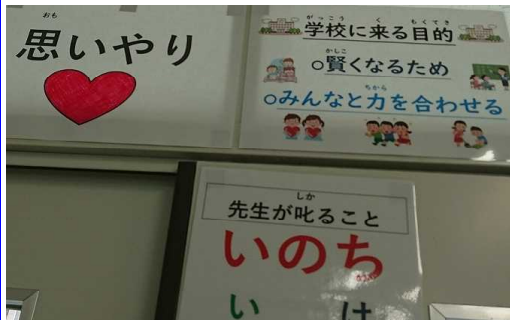
- 道徳の授業は楽しいと答える子が多い
- 自分の長所を明確に発表できる子が多
- 発表が苦手な子、振り返りが苦手な子
- 説明が上手く書けない、まとめが苦手
- 発言力ある子、数十名で授業が進行

■「支持的風土づくり」の4POINT■

- 「安心」：基本良い。数名、気になる子
- 「所属」：係活動や当番活動で活性化
- 「承認」：有用感に基づく自己肯定感
- 「自立」：メタ認知、将来の夢「意志型」

【教室の色(支持的風土)】

●「掲示物」＝「いじめ」「けじめ」



●「UD化」ロッカーの整理・整頓



■【授業の流れ】は、下記のとおり■

- 01 ■【導入（5分）】
- 02 「自分の長所を考える」
- 03 多くの子ども達が発表してくれる
- 04 「生徒指導の3機能」（共感的人間関係）
- 05 ■【展開・前段（15分）】
- 06 ICT機器を活用して、資料読みを行う
- 07 その間、机間巡視指導を行う
- 08 読みについていけない子への支援
- 09 ◆乾先生の言葉でどんな気持ちになった
- 10 ・肯定的な意見がぞくぞくと出る
- 11 ・スムーズに進行しすぎるほどだ
- 12 ・苦手意識を持っていた子どもは？
- 13 ◆母の言葉で、どう思ったのかな？
- 14 ・漫画家を続けることが出来たのだ
- 15 ・支えてくれる人がいる
- 16 ■【中心発問】
- 17 ◆「自分の良い所を伸ばすには、どんな
- 18 事が大切ですか」
- 19 ・続けること、努力すること
- 20 ・あきらめない ・やるべき事はする
- ※ ■【終末（15分）】 振り返りを行う。

【教師の眼(教師の姿勢)】

●「教師の姿勢」落ち着き、淡々と・・・



●「ICT活用の資料読み」机間巡視指導



●「5年スタッフ」誠子先生のホロー有り



■「教師の様子」(教師力)■

- 落ち着いていて、言葉が優しく、明瞭である。
- クラス全体を見渡せる余裕、指示が的確だ。
- 考えを伝えてくれた事に対し教師の感謝の言葉
- 考えの良い点を認め、全員で承認する場面有り
- 普段の学校生活の中の素敵な場面を出した方が
- 生徒指導の3機能を生かした場面、有り
- 支持的風土づくりの4POINTを意識していた
- 将に、時宜を得た「題材、資料」であった。
- 「他者への貢献」「他者との協働」に取り組んで
- 本時で考えた事を、今後の生活に生かして行く

【感想】 「自己肯定感」に関する、時宜を得た学習内容（題材、資料）でした。ありがとうございました。

- 5学年は、1・3組で授業を（検証）流して、本時に臨んだとのこと。連帯感と協働性を感じます。
- 5学年は、学年はじめに「UD化」による、「学習空間を」、「環境を」、「平らに（統一化）」している。
- アンケートを実施して、客観的資料を持っている。場合によっては、児童に提示するのも良い効果。
- 「Before」「After」が肝心で、そのきっかけとなった「中心発問」にインパクトを持たせたい。
- 道徳も教科学習も「一朝一夕」で出来るものではない。日々の生活の中に落とし込んでいく必要が
- 今回の授業を皮切りに、日々、「授業改善・学校改善」に「不断的努力」を惜しまず頑張ろう！！



校長より